

2023 年 3 月 10 日 西村大臣訓示

東日本大震災から、明日で 12 年となります。この機に改めて、東京電力福島第一原子力発電所の安全かつ着実な廃炉・汚染水・処理水対策の実施、そして福島の復興を成し遂げることが、経済産業省にとって最重要課題であるということを、改めて、皆さま方に心に刻んでいただきたいと思います。

当時私は野党でしたが、経産委員会の筆頭理事でしたし、野党・自民党の経産部会長でありました。事故の直後から、自民党の責任者の 1 人として、経産省には何度も、当時松永次官でしたが、足を運んで、色んな状況を聞きました。当時は与野党なく取り組もうということで、私自身も、1 人でも多くの方の命を救い、そして、復旧・復興に向けて取り組まなければいけないということで、私なりに全力で取り組んでいたことを思い出します。ぜひ、あの日のことをもう一度思い出していただきながら、福島の復興、ぜひみんなで力を合わせて全力で取り組んでいければと思います。

大臣に就任してからも 5 回、福島を訪問しました。国会、あるいは海外出張もあって、なかなか時間を見つけるのも難しいですが、それでも多くの首長の皆さん、あるいは福島の地元の皆さんと色んな意見交換をする中で、まだまだ復興への道のりは長い、道半ばという思いを強く持っております。

明日、追悼式典に出席をいたします。ぜひ皆さんのお力を借りながら、福島の皆さんのためにも、そしてそのことが日本全体の発展に繋がっていく、その思いで取り組んでいければと思います。

三陸・常磐ものの消費拡大も、小さな力でもみんな合わせれば大きな力になります。今日もお昼、福島弁当をいただきました。福島牛や、金華サバという宮城県のサバも美味しかったです。少しでも何かプラスになるようなことを皆さんにもお願いをしたいと思います。

福島第一原発の廃炉は、まさに世界で前例のない取り組みであります。汚染水発生量の抑制、使用済燃料プールからの燃料取り出しなど、着実に進んできています。燃料デブリの取り出し作業はこれから本格化しますが、取り出し技術の開発、デブリの分析体制の構築など、私も櫓葉のモックアップの施設を見に行きましたけれども、技術は進化しています。責任を持って取り組んでいかなければいけないと思っております。

そして、廃炉の実現に向けて、言うまでもなく、ALPS 処理水の処分は避けては通れない課題です。本年春から夏頃を見込む海洋放出に向けて、引き続き、理解醸成、安全確保、風評対策に徹底的に取り組んでいきたいと思っております。

私自身も、漁業者の皆さんと車座対話を行いました。非常に厳しい意見も投げかけられましたが、しかし、そうした漁業者の皆さんの思いをしっかり受け止めて、寄り添いながら進めていかなければいけないと思います。

先ほどの三陸・常磐ものの消費拡大も、経済界の皆さんにもお願いして、900 者を超える皆さんが協力をしてくれて、社内の食堂やキッチンカーなどで、そうした支援をしてくれております。ぜひ、引き続き皆様方にもお力添えいただければと思います。

帰還困難区域につきましては、昨年の葛尾村、大熊町、双葉町の特定復興再生拠点の避難指示解除に続いて、今月末には浪江町、そして4月、5月にかけて、富岡町、飯舘村の拠点も解除に向けた調整が進んでいくものと思います。

昨年、大熊町の帰還困難区域にある住宅を訪ねました。震災後、11年以上経ってそのままの状態であった状況をこの目で見ました。イノシシが雨戸を開け、ガラスを割って中に入った跡があり、中は乱された当時のままでありました。何とか解決しなければいけないという思いを強くしたところであります。

今国会に提出された福島特措法の改正案は、これを解決し、帰還意向のある住民の方々の帰還を実現する画期的なものです。この法案の成立の暁には、住民の皆さんの帰還に向けた環境整備を進め、将来的には、帰還困難区域全域の避難指示解除に繋げていければと思います。

どこの町もそうですが、避難指示解除はゴールではなく、ここからまた新たな復興が始まるというスタート地点であると思います。解除地域の復興に向けて、被災事業者の事業・なりわいの再建、新たな産業の創出、そうしたことで「働く場」を確保していかなければいけないと思います。

福島の復興に向けては、第一原発の廃炉、中間貯蔵施設の除去土壌の県外処分に向けた対応など、本当に長い時間のかかる困難な課題を克服していくことが必要です。経済産業省がその責任を果たすためにも、若い世代に繋げていくことも重要ですし、既に若い皆さんが、様々な活躍をしてくれていることを本当に嬉しく思います。

福島復興推進グループだけではなく、それぞれの持ち場で、できることを考えて取り組んでいただければと思います。企業立地・産業集積についても、福島を第一に、研究開発や実証・実用化についても、この4月に立ち上がるF-REI、視察をさせていただきました福島の実証フィールドを活用できないか、ぜひ考えていただければと思いますし、特に浜通りでは、震災以降400件を超える事業者が立地決定をしてくれております。非常に手厚い支援もありますし、それを利用して多くの企業が立地をしてくれていることを本当に嬉しく思います。

南相馬市ではロボット・ドローン、浪江町では水素、広野町では地中熱といった色々な新しい取り組みが進んできています。新しい産業の芽が生まれてきているのだらうと思いますので、ぜひ色々な形で支援をしていただければと思います。

また、芸術文化の力、これもやはり文化を育てていき、多くの人の交流を生み出します。私達の心、そして福島の方々の心を潤し、豊かにしてくれる文化芸術の力も大事です。昨年立ち上げた「浜通り映像・芸術若手チーム」では、まさに省内の若手の皆さんが映像・芸術文化による取組を通じて、人と人をつなぎ、魅力ある地域の実現に向けて取り組んでおられると思います。

昨年夏、解除したばかりの双葉町において映画イベントがありました。私と前任の萩生田大臣も一緒に訪問しましたが、若い皆さんが生き生きとした姿で、ショートムービーですけれども非常に心を打つような映画を見させていただきました。

ぜひ若手チームの皆さん、省内で既に募集をしているので、我こそはと思う人は手を挙げて、福島の復興に文化・芸術を中心にいろんな取り組みがありますから、ぜひ取り組んでいただければと思います。若手職員の挑戦に対しては、幹部は、しっかり後押しするようにお願いしたいと思います。幹部も手を挙げてもらってもいいですよ、ぜひ。自分は歳はいつても気持ちちは若いという人は、手を挙げていただければと思います。

ぜひ、福島が復興を成し遂げるその日まで、皆で力を合わせてやっていければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。